

BE THE PLAYER

自分で考え

動く 生み出す

そして社会を変える

令和7年2月28日
教育課程企画特別部会
資料 1 - 4

加賀市立山代中学校の授業づくり等について

石川県加賀市立山代中学校 中村 奈緒美 出藤 大成

加賀市教育委員会教育長 島谷 千春

令和7年2月28日
中央教育審議会初等中等教育分科会
教育課程部会教育課程企画特別部会

INDEX

0 加賀市教育委員会のこだわり

1 学校全体概要

2 授業づくりの概要

(1) 単元を意識した授業づくり

(2) 生徒の実態に応じた手立ての構築

(3) 振り返りの充実

(4) 学びをつなぐ「カリキュラム・マネジメント」

授業構想の具体例 国語

3 取組の成果

(1) 教師の成長にどのようにつながったか

① 単元で授業を構想していくこと

② 足場かけ(手立て)の工夫

③ 適切な評価場面の設定

(2) 多様な子ども達にとって学びやすい環境

(3) 教師の負担軽減に資する可能性

4 次期学習指導要領に求めること

(1) 視覚的にも捉えやすい学習指導要領

(2) デジタル化された学習指導要領

(3) より具体的に理解ができる学習指導要領

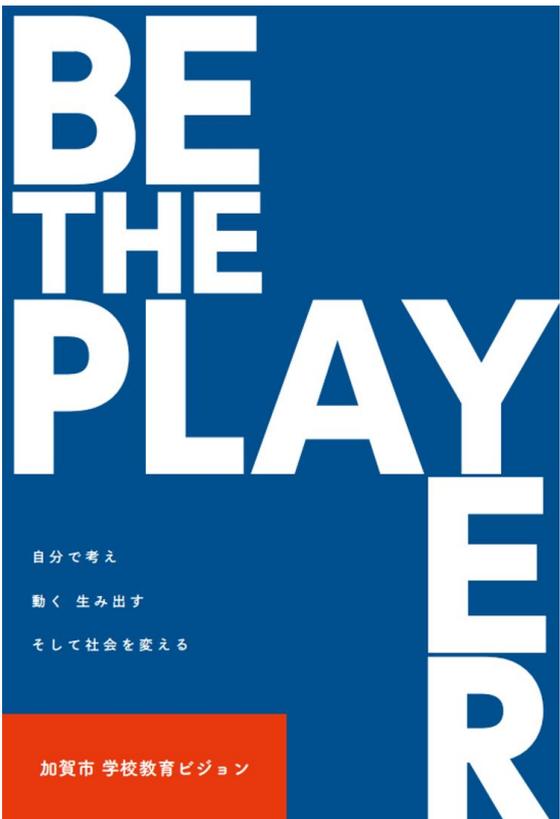
(4) 見方・考え方がより具体的にイメージできる学習指導要領

(5) カリキュラム・マネジメントを実施するにあたって活用しやすい学習指導要領

(参考資料)

授業構想の具体例 技術・家庭科(家庭分野)

0 加賀市教育委員会のこだわり



こだわり1 明確なビジョン

大きな「方向感」のイメージを共有 ビジョンは全戸配布

こだわり2 モデル校なし 全小中学校・全教職員で

市内全小中学校(計23校)・全教職員で、画一的な一斉一律の授業から脱却し、子どもが主役の授業「子どもに委ねる学び」への転換を目指す
ただし個々人の進度はそろえない

こだわり3 マニュアル化しない 手法の目的化を回避

マニュアルは作らず、手法は縛らず、学校や教員の実践の「余白」と「自由度」を最大限上げる
目の前の子どもにフォーカスした授業づくりの意識の徹底
目指したのは自由進度学習ではない

こだわり4 研修観を転換 子どもの学びと相似形を目指す

主体的／個別最適 → 伴走型支援(個人のオーダーに応じて、授業づくり等を伴走支援)
対話的／協働的 → 対話型研修(リフレクション・言語化・内省・次へのサイクル)
＜指導主事の「指導・助言」から脱却 → 「伴走型支援」への転換不可欠＞



1 学校全体概要

石川県加賀市立山代中学校

【生徒数】371名(各学年4クラス)

【教職員数】48名

【校訓】私もみんなも幸になる
社会をつくる人になろう

【教育目標】未来を拓く力
よりよく生きる力を育む

【めざす生徒像】

- 「や」やり抜く力をきたえ生きる生徒
- 「ま」学ぶ意欲を持ち共に努力する生徒
- 「し」集団の規律を守り高め合える生徒
- 「ろ」労を惜しまず社会に貢献できる生徒



校訓

私もみんなも

幸になる社会をつくる人になろう

2 授業づくりの概要

▶研究主題

「主体的・対話的で深い学び」を追究する生徒の育成
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した授業づくりを通して～

▶研究主題設定の理由

本校生徒の特徴

- 見通しのなかで意欲的に学ぶ
- 学び方への意識向上

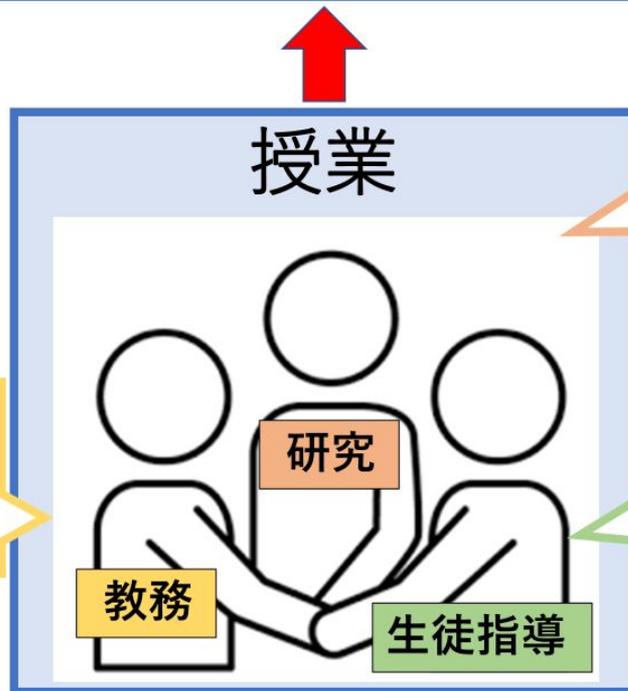
- ▽学習への困難さを抱える生徒が多い
- ▽学習の深まりや定着
- ▽自律した学び手

一人ひとりの確実な資質・能力の育成に向けた
主体性の質の向上・他者との対話での深まりを目指す授業設計が必要

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

授業を軸とした
教務・研究
生徒指導の
連携

「学びをつなぐ」
カリキュラムマネジメント



個別最適×協働的
授業づくり

関わりの力の育成

教務

研究

生徒指導

授業

授業づくりに関する具体的な取組

- (1)「単元」を意識した授業づくり
- (2)生徒の実態に応じた「手立て」の構築
- (3)「振り返り」の充実
- (4)学びをつなぐ「カリキュラム・マネジメント」

(1)「単元」を意識した授業づくり

- ▶1時間ごとの授業の結びつき
- ▶何を子どもに委ねるかを精査
- ▶単元で個別・協働・教師主導の場면을意図的に設定
- ▶単元マップを作成し単元での学びを生徒と共有

[共通する単元マップの要素]

- ①単元名 ②単元の目標 ③単元の流れ ④時数 ⑤手立て ⑥評価

(2) 生徒の実態に応じた「手立て」の構築

▶ 指導方法や教材などの柔軟な提供や設定が必要



▶ 生徒理解をもとに、生徒自身が学習に必要な情報に、
必要なタイミングでアクセスできる環境づくり

ICTの活用

実物や図版の活用

課題解決学習で読み解く「故郷」

目標 「問い」を立てて作品を読み、登場人物の言動や物語の展開の意味を考えながら自分の考えをもつことができる。

中学校国語で必修の物語教材である「故郷」。舞台はかつての中国、そこで生きる人々の憂や心遣いが巧みな表現で語られています。巻頭が書いた「故郷」とはどのような作品なのでしょう。これまで学習してきたことを生かして、考えていきましょう。

学習のプロセスと目安時間	今日の課題	今日の振り返り	使用教材
◆課題設定 (3時間)	作品をつかむ ・時代・作者・登場人物・あらすじ (課題設定)		ワークシート
◆自力解決の◆学び合い (3時間)	問いを立てる (課題設定)		企業の問いを生かす
◆まとめ・表現 (1時間)			
◆振り返り (1時間)			
	単元の振り返り (振り返り)		

学習のてびき一覧 (随時更新していきます)

課題設定	自力解決
学び合い	まとめ・表現



▶ICTを活用した手立ての例①

動画や資料等をGoogle Driveに
保存



単元マップにリンクを貼付



単元マップから生徒のタイミング
で見ることが可能



▶ICTを活用した手立ての例②

Google Meetを活用



外部の専門家などと繋がる
場を設定



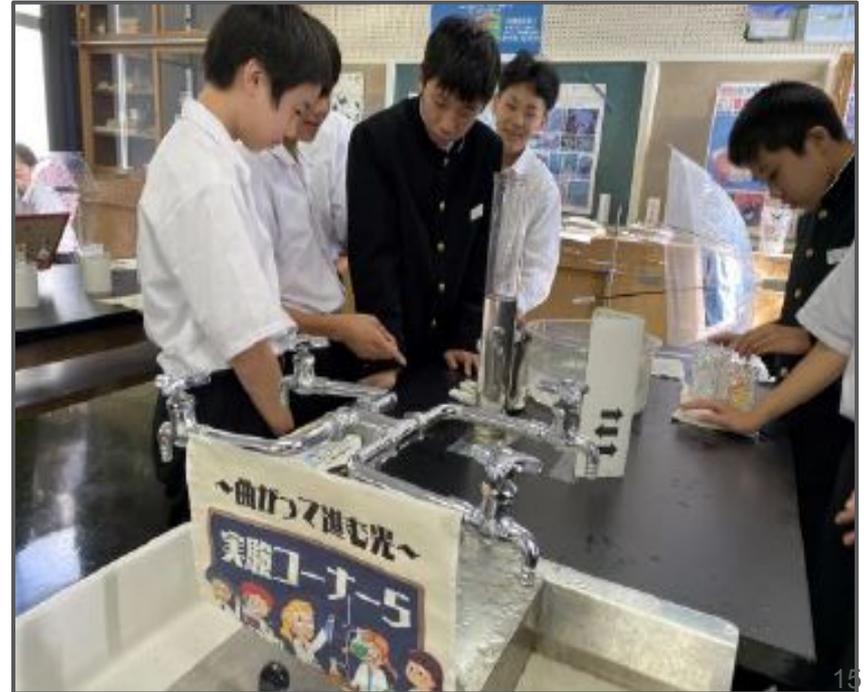
専門的な知識を得ることや
生徒自ら疑問点を質問する
ことが可能

▶ 実物等を利用した手立て

いつでも実験器具に触れられる
環境

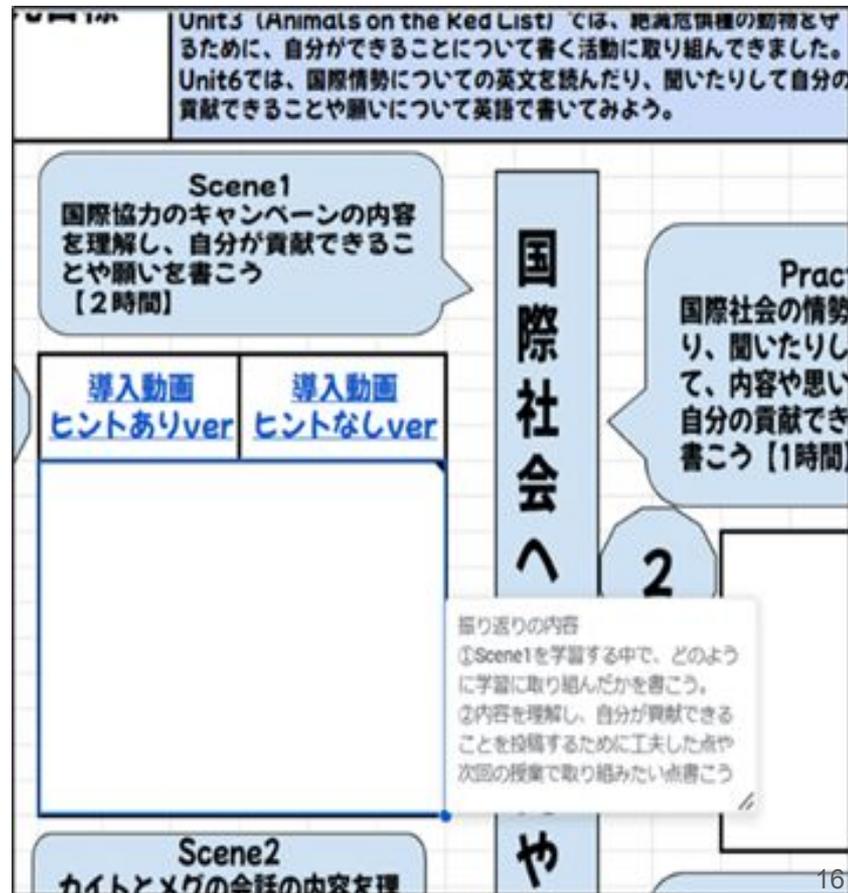


個々の課題や興味・関心にあわせて
実験を選ぶこと、いつでも実験に
立ち返って調べることが可能



(3)「振り返り」の充実

- ▶全教科で振り返りシート活用
- ▶生徒が学習内容や手応えを自覚
- ▶単元マップと一体化
 - 課題・見通し・学びの足跡を一覧することが可能



(4) 学びをつなぐ「カリキュラム・マネジメント」

- ・主体的・対話的で深い学びの実現
- ・育成したい資質・能力を身に付けさせる

- ▶何ができるようになるか(育成を目指す資質・能力)
- ▶何を学ぶか(教科等を学ぶ意義、教科等間のつながり)
- ▶いつ学ぶか(各教科等の指導計画)
- ▶どのように学ぶか(学習・指導の改善・充実)
- ▶何が身についたか(学習評価の充実)

学年ごとに1つのシートにまとめる

全教科で生徒の資質・能力を育成していく

R6 しろちゅうロードマップ (第2学年)

	校訓 各幸になる社会をつくる人になろう			
	教育目標 主体的な資質・能力、よりよく生きる力を育む			
目指す生徒像	「ま」やり抜く力をきたえ生きる生徒 (主体性) 「ま」学ぶ意欲を持ち共に努力する生徒 (忍耐力) 「し」集団の規律を守り高め合える生徒 (協働能力) 「る」勇を惜しまず社会に貢献できる生徒 (創造力)			
★学力調査の分析結果をもとに、今年度重点をおく単元には「★」と赤字で記入している。				
	4月	5月	6月	
国語	<ul style="list-style-type: none"> 見えないだけ アイスプラネット 問いを立てながら聞く 図書館リテラシー 	<ul style="list-style-type: none"> 株屋子 思考の視覚化 多様な方法で情報を集めよう 熟語の構成 漢字に親しもう 	<ul style="list-style-type: none"> クマゼミ増加の原因を探る 具体と抽象 ★能力的な読解をしよう 単語をどう分ける? 情報社会を生きる 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい明歌 ★短歌を持つ 言葉の力 傾聴語、対話 言葉比べ 読書を楽しむ
社会	<ul style="list-style-type: none"> 日本のさまざまな地域 世界から見た日本の姿 (人口・資源・エネルギーと産業) 	<ul style="list-style-type: none"> 日本のさまざまな地域 世界から見た日本の姿 (人口・資源・エネルギーと産業) 	<ul style="list-style-type: none"> 世界と日本の結びつき 九州地方 中国・四国地方 	<ul style="list-style-type: none"> 世界と日本の近畿地方
数学	<ul style="list-style-type: none"> ★式の計算 	<ul style="list-style-type: none"> ★文字式の利用 	<ul style="list-style-type: none"> 連立方程式とその解き方 	<ul style="list-style-type: none"> 連立方程式★1次関数
理科	<ul style="list-style-type: none"> 化学変化と物質 ★熱分解と電気分解 原子と分子 	<ul style="list-style-type: none"> 物質を表す記号 ★化学反応式 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな化学変化 ★化学と酸化・燃焼 質量保存の法則 	<ul style="list-style-type: none"> ★植物、動物の細胞のつくり 17 生態系生物

(4) 学びをつなぐ「カリキュラム・マネジメント」

手順1

学校教育目標と学習指導要領を踏まえて、育てたい具体的な生徒の姿を描き『全体計画』を描く。

手順2

育成を目指す生徒の姿(資質・能力)を目指して、学年ごとに教科等の年間指導計画を統合し、1つのシートで年間の学習活動を俯瞰できる『単元配列表』を描く

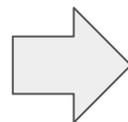
手順3 一連のまとめりである『単元』を描く

手順1

学校教育目標と学習指導要領を踏まえて、育てたい具体的な生徒の姿を描き『全体計画』を描く。

育成を目指す生徒の姿(短期目標)を資質・能力ごとに設定し、全職員で共有することにより、先生方で目指す方向性が定まる。

校訓	私もみんなも幸になる社会をつくる人になるう			
学校教育目標	未来を拓く力 よりよく生きる力			
目指す生徒像	①やり抜く力をきたえ 生きる生徒	②学ぶ意欲を持ち 共に努力する生徒	③集団の規律を守り 高め合える生徒	④労を惜しまず 社会に貢献できる生徒
成果				
課題				
どんな力を 身に付けて ほしいか どんなことが できるよになっ てほしいか				



目指す生徒像	①やり抜く力をきたえ 生きる生徒
成果	<ul style="list-style-type: none">参加率が上がった苦手なことにも取り組める生徒がでてきた取り組もうとはする
課題	<ul style="list-style-type: none">やり抜いているかと言えば…最後までできていない子ども楽しそうなことだけとりくむ意欲に波がある、波もふり幅が大きい

(4) 学びをつなぐ「カリキュラム・マネジメント」

手順2

育成を目指す生徒の姿(資質・能力)を目指して、学年ごとに教科等の年間指導計画を統合し、1つのシートで年間の学習活動を俯瞰できる『**単元配列表**』を描く

★学力調査の分析結果をもとに、今年度重点をおく単元には「★」と赤字で記入している。

	4月	5月	6月	7月
国語	<ul style="list-style-type: none"> 見えないだけ アイズプラネット 問いを立てながら聞く 図書館リリテーション 	<ul style="list-style-type: none"> 枕草子 患者の視覚化 多様な方法で情報を集めよう 熟語の構成 漢字に親しもう 	<ul style="list-style-type: none"> クマゼミ増加の原因を探る 具体と抽象 ★魅力的な提案をしよう 単語をどう分ける？ 情報社会を生きる 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい短歌のために ★短歌を味わう 言葉の力 類義語・対義語・多 言葉を比べよう 読書を楽しむ
社会	<ul style="list-style-type: none"> 日本のさまざまな地域世界から見た日本の姿(人口・資源・エネルギーと産業) 	<ul style="list-style-type: none"> 日本のさまざまな地域世界から見た日本の姿(人口・資源・エネルギーと産業) 	<ul style="list-style-type: none"> 世界と日本の結びつき九州地方中国・四国地方 	<ul style="list-style-type: none"> 世界と日本の結びつき近畿地方
数学	★式の計算	★文字式の利用	連立方程式とその解き方	連立方程式の利用 ★1次関数
理科	<ul style="list-style-type: none"> 化学変化と物質 熱分解と電気分解 原子と分子 	<ul style="list-style-type: none"> 物質を表す記号 化学反応式 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな化学変化 化合と酸化、燃焼 質量保存の法則 化学変化による熱 	<ul style="list-style-type: none"> 植物、動物の細胞 細胞のつくり 単細胞生物と多細胞
英語	Unit0 My Spring Vacation	Unit1 A Trip to Singapore Unit2 Food Travels around the World Let's Talk1 ★Let's Listen1	Unit2 Food Travels around the World Unit3 My Future Job Let's Talk2 ★Let's Listen2	Stage Activity1 Let's Read1 Unit4 Homestay in the States
学年行事	<ul style="list-style-type: none"> 学年集会 学年懇談会 授業参観 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒理解面談 	<ul style="list-style-type: none"> 学年レクリエーション 	<ul style="list-style-type: none"> 学年集会

・各教科等の学習内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、目標の達成に必要な教科の内容を組織的に配置した。

・今後はこのシートを生徒とも共有し、「見通しをもって学習に取り組むこと」や「学びをつなぐ」ことを意識することにつなげていきたい。

手順3 一連のまとめりである『単元』を描く

単元配列表

単元マップ

R6 しろちゅう ロードマップ (第2学年)	校訓	わたしもみんなも幸になる社会をつくる人になろう			
	教育目標	未来を拓く力、よりよく生きる力を育む			
	目指す生徒像	「や」やり抜く力をきたえ生きる生徒 (主体性) 「ま」学ぶ意欲を持ち共に努力する生徒 (忍耐力) 「し」集団の規律を守り高め合える生徒 (協働力) 「ろ」力を借しまず社会に貢献できる生徒 (創造力)			
	★学力調査の分析結果をもとに、今年度重点をおく単元には「★」と赤字で記入している。				
	4月	5月	6月	7月	
国語	見えないだけ ・アイスプラネット ・問いを立てながら聞く ・図書館リサーチ	・枕草子 ・思考の視覚化 ・多様な方法で情報を集めよう ・熟語の構成 ・漢字に親しもう	・クマゼミ増加の原因を探る ・具体と抽象 ★魅力的提案をしよう ・単語をどう分ける？ ・情報社会を生きる	・新しい和歌のために ★和歌を味わう ・言葉の力 ・英単語・対義語・多義語 ・言葉比べよう ・読書を楽しもう	
社会	資料 ・日本のさまざまな地域 世界から見た日本の姿 (人口・資源・	資料 ・日本のさまざまな地域 世界から見た日本の姿 (人口・資源・	資料 ・世界と日本の結びつき 九州地方 中国・四国地方	資料 ・世界と日本の結びつき 近畿地方	
数学	★ 4月 資料 ・連立方程式と	資料 ・連立方程式と	資料 ・連立方程式と	資料 ・連立方程式と	
理科	資料 ・いろいろな化学変化 ・化合と酸化、燃焼 ・質量保存の法則 ・化学変化による熱	資料 ・植物、動物の細胞 ・細胞のつくり ・単細胞生物と多細胞生物	資料	資料	
英語	Unit2 Food Travels around the World	Unit2 Food Travels around the World	Unit3 My Future Job Let's Talk2	Stage Activity1 Let's Read1 Unit4 Homestay in the Unit States	

単元マップ (日本の地域的特色 教科書 p142~169)

視点

1時間目
「日本はどのような国? ~単元の課題を設定しよう~」
○日本はどのような国が考える中で、単元の課題を設定することができる (主体的)

【単元の課題】 日本はどのような特色をもった国なのか

地形

2~3時間目
「日本の地形について理解する」
○山地・山脈や川・海・海岸などの日本の地形について理解できる (知識・技能)

4~5時間目

Googleスプレッドシートで全職員が、「どの教科で」「いつ」「どのような学習を行うか」をいつでも見ることができる

手順3 一連のまとめりである『単元』を描く

他の教科と関連付けて考える。

ある教科の「資質・能力」が別の教科の「資質・能力」とつながり、学習したことを活用・発揮（利用・促進）されることで「資質・能力」が概念化され安定的で持続可能な資質・能力となる。

例

国語科

技術・家庭科(家庭分野)

「根拠を示して説明する」とはどのようなことか学習する。

「魚嫌い」、「魚料理離れ」が近年、急増している。

資料や技術・家庭科で学習したこと等を材料に根拠をもとにして整理する。

課題を設定し、調べたり、調理実習をしたりしながら解決方法を探る。

実践について考察したことを根拠や理由を明確にして筋道をたてて説明する。

授業構想の具体例・中学国語

(1) 準備段階

- ・学習教材を読んだり、先行研究などを調べる
- ・教材のもつ特性や価値を把握
- ・学習指導要領と教材を照らし合わせる
- ・育成したい資質・能力を決定
- ・既習を確認し、該当学年でおさえるべき内容を把握

【例】中学校 国語 C読むこと(1)ウ

2年生＝～登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈する

3年生＝文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方に～

→2年生での学習に加えて3年生では批判的に読むということが必要

- ・該当学年でおさえるべき内容の具体をつかむ

【例】批判的に読むとは？ →各学年の内容へ→「批判的に読むとは文章に書かれていることを～吟味したり検討したり」

※批判的に読むとは主張と根拠の関係性等の吟味、文章に表れた見方、考え方に対して共感や納得ができるか否かを考えることであることをつかむ。

- ・生徒の既習事項の定着具合などを確認

【例】2年生の「言動の意味～解釈する」は十分に身につけているか？ 既習を再度おさえるような単元構想は必要か？

(2)単元の流れをつくる①

- ・学習指導要領の言語活動例を参考にして指導内容が身につくような言語活動を考える

※学習する意味、社会での有用性、興味・関心に沿ったものに

- ・言語活動に自分で取り組んでみる

※どのように読めたり、書けたり、話せたりしていれば良いかを学習指導要領と教材、生徒の実態を踏まえながら具体化 しゴールの姿を明らかにする

- ・単元の目標や評価規準を決める
- ・言語活動を具体化していくなかで、生徒の思考の流れやつまづく可能性のある事柄などを明らかにする

(2)単元の流れをつくる②

- ・ゴールの姿から逆算しながら単元の学習の流れをつくる(いつ、どこで、何を)

※知識・技能を活用し、思考・判断・表現する流れ

思考・判断・表現しながら知識・技能を身につける流れ

→いずれにしても言語活動を通して、資質・能力が身につくようにする

- ・各時間のゴールの姿と学習課題を作成し、学習の流れを作成する

- ・生徒の思考の流れやつまづく可能性のある事柄などを踏まえて手立てを作成する

※個々の生徒が自力で目標達成に向かうための手立てを構築する

→学習モデル、ワークシート、ヒントとなるスライド、動画や写真資料など

※より学びが深まるための手立てを構築する

→授業形態、交流の視点の明確化、互いの考えの可視化、タブレット端末の活用など、他教科との関連

- ・単元の導入を考える

※学習する意味、社会での有用性、興味・関心の喚起など

(3) 単元マップに整理する

単元マップの要素

- ・学習のプロセス
- ・学習の目標
- ・学習の流れ
- ・時数
- ・使用教材
- ・評価(規準・場面・方法)
- ・手引き一覧
- ・振り返り(本時と単元末)

授業構想の具体例・中学国語

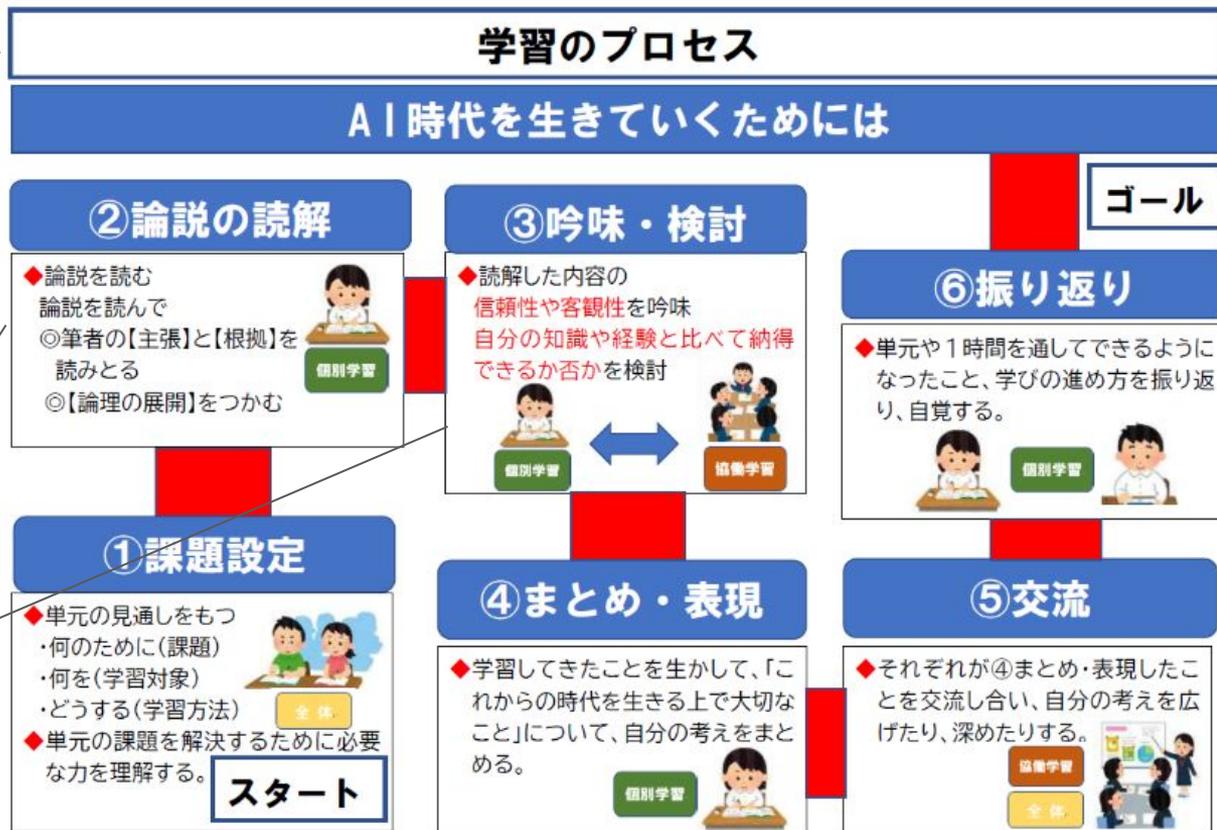
単元マップの例

・単元のゴール

・学習の流れ

・段階ごとの活動の概要

・学習の形態



単元マップの例

学習課題

振り返り
各時間ごと

目標

AI時代を生きていくためには	
目標	<ul style="list-style-type: none"> 情報の信頼性を確かめながら読むことができる。 文章を批判的に読み、これからの社会の在り方について自分の意見をもつことができる。

時間

学習のプロセスと目安時間	今日の課題	今日の振り返り	使用教材	評価
◆課題設定	学習の見通しと課題をつかみ、解決方法を理解する		プリント	知・技
◆論説の読解	二つの論説の論理展開をつかむ		ワークシート①	主 思 体 判 表
◆吟味・検討	【主張と根拠】や【論理の展開】を吟味、検討する		ワークシート②	
◆まとめ・表現	自分の考えを文章にまとめる		ワークシート③	
◆振り返り	単元の学習を振り返る		単元マップ	

使用教材

手立て
Googleドライ
ブにリンク

学習のてびき一覧（随時更新していきます）	
課題設定	論説の読解
考えの交流	まとめ・表現

評価
場面・規準・方法

評価について		
項目	評価内容	評価方法
知識・技能	情報の信頼性の確かめ方を理解して、論説を読むことができる。	プリント
思・判・表	文章を批判的に読みながら、文章に表れているもの見方や考え方について考えることができる。	ワークシート③
主体的に学習に取り組む態度	粘り強く、文章を批判的に読み、学習課題に沿って「これからの時代に大切なこと」について自分の考えをもつことができる。	ワークシート②/行動

振り返り
単元末

単元(題材)を振り返って	
どのように学習を進めることができましたか？どのような工夫をすることが出来ましたか？	学習を進めていく中で、何が分かりましたか？できるようになりましたか？

3 取組の成果

取組の成果

- (1) 教師の授業構想力の向上
- (2) 多様な子供達にとって学びやすい環境づくり
- (3) 教師の負担軽減に資する可能性

(1) 教師の授業構想力の向上

①単元で授業を構想していくこと

- ▶学習指導要領の言葉の意味を深く考えるようになった
- ▶単元全体を見通して、身に付けさせる力を明確にするようになった
- ▶1時間ごとのつながりが意識できるようになり、大切なポイントをはずさない授業づくりができるようになってきている

「この知識や考え方がゴールの姿につながるし、大事にせなあかんなあ」
「なんとなくの1時間がなくなった。投げ込みの1時間がなくなった。」

- ▶生徒の振り返りを読むときに、「育成したい資質・能力が獲得できたか」の視点で見ることができるようになり、授業改善にもつながった
- ▶「将来、こんな力が必要」と将来を見据えて考えるようになった

(1) 教師の授業構想力の向上

②足場かけ(手立て)の工夫

- ▶ 資質・能力をつけさせるためにどのようなことが必要か考えるようになった(×活動あって学びなし ○目的のある活動)
- ▶ 授業形態を意識するようになった
「ここは協働」、「ここは個別」、「ここは全体で」
- ▶ 学級全体をみるだけでなく、個の学びに焦点をあてるようになった
- ▶ 生徒のことをよく考えるようになった
つまずきやすいところ、支援が必要な生徒への対応、ICTの活用
- ▶ 様々な足場かけを工夫する力がついた。引き出しが増えた。
難易度別ワークシート、ヒント動画、資料、オンライン等

(1) 教師の授業構想力の向上

③適切な評価場面の設定

- ▶ねらいにそったパフォーマンス課題を設定するようになった
- ▶「主体的に学習に取り組む態度」の評価 ...主体的に学習に取り組む環境設定やパフォーマンス課題を意図的に設定することにより、主体的な生徒の姿を見取ること、自然と指導と評価の一体化が図れた。

主体的に学習に取り組む態度の評価

従来は...

・手をあげる回数 ・ワークの提出物

主体的に学習
に取り組む
場面を意図的
に設定

生徒の姿

暗い夜を照らしてくれるような明るいカフェテリア。数人で机を囲む
大團圓客。

動き出して接客を始めそうな店員や人の穏やかな日常的な会話を想像することが
できるカフェテラスは優しく明るい穏やかな雰囲気を感じさせられる。

それとはうらはらに、
街の中から見える、暗い夜空に印象深く輝く浮かぶ星。真っ黒な街に繋がっ
ている先の見えない道から今にも何かが出てきそうな描写から
怖い様子を感じさせることで、よりカフェテラスのにぎやかな雰囲気が目
立って際立って伝わってくるのが分かる。

幸せを感じさせてくれるほのぼのした描写に、
少し真逆

パフォーマンス課題

試行錯誤のあと・書き換えのあと

「明るくて優しい」を絵の雰囲気に合わせてもっと想像しやすい表現にしようと考えた
ときに、「ほのぼの」とか「おだやか」という言葉を見つけてことができ、まさに絵に
あった表現を見つけてきたこと。

簡単な表現に縛られず、小説や漫画などである様々な言葉を思い出し、絵にあってい
る表現はないか考えることができた。

自分がまとめて考えたものを、一回崩して書いてみて読み手が文章を読んだときに、
自分の絵の理解した過程を伝えることができるように頑張った。

根拠から思えることを伝えるときは、必ず自分の感想を入れすぎないようにした。
関連づけて話をするときも、絵の内容を盛ったり、根拠と比べてみて間違いがないよう
に気をつけた。

日常でも、家族や友だちと話すとき、紛らわしくない範囲で自分の思っていることが間違
いなく伝わるように頑張ってみよう。

自分が知っている言葉は、自分が思っている意味と少し違う意味を持っているかもしれな
いので、間違いがないか調べたい。

振り返り

振り返り

(2) 多様な子供達にとって学びやすい環境づくり

- ▶ 学習の見通しがもてる
- ▶ 学習の目的が分かる一意欲にもつながる
何もしない子が減った、ねばり強く学べる
- ▶ 学んだことや学び方が自覚できるようになった
自分に合った学び方を選べるようになってきた
- ▶ 他の人の考えを自分の学びに生かしている
- ▶ いつでも、どこでも好きなタイミングで見ることができる
- ▶ 難易度が選べるようになった
- ▶ 手書きよりも文字数が増えた

(3) 教師の負担軽減に資する可能性

取組によって**負担軽減**につながりました！

- ICT活用が不可欠となりフル活用することにより、業務効率化につながっている

例)

- 印刷する手間がなくなった
- 単元マップ・手立て等を随時更新できる
- フィードバックしやすい
- すべてデータ化されて持ち運びしやすい
- 他教科の取組が見える

- 単元で授業構想することで、評価場面、評価材料を精選することができた
- 単元中に「次、なにしよう」と悩むことがなくなった

今まだ模索中なので、**実は負担も**大きいです…

- 単元の最後では「そろそろ次の準備をしなくては…」と精神的な負担があり、準備のためのまとまった時間が必要になる（時間がない問題）

例) 特に時間を要すること

- ・指導要領の難解な文章を読み解くこと
- ・指導要領の羅列的な内容を構造化すること
- ・他教科との繋がりを把握すること
- ・これらを踏まえ単元マップの作成をすること

- 個に応じようとすればするほど、たくさんの手立てが必要になり準備に追われる(手立て地獄)
- 職員での共通理解が大変
(「なーんも分からん」と言われたり…)

過渡期ならではの負担感にとどまるものもあるが、そもそも「特に時間を要すること」の部分は、今の指導要領の構造上、どうしても時間がかかり、職員誰もがスムーズにできるわけではない

4 次期学習指導要領に求めること

次期学習指導要領に求めること

- (1) 視覚的にも捉えやすい学習指導要領
- (2) デジタル化された学習指導要領
- (3) より具体的に理解ができる学習指導要領
- (4) 見方・考え方がより具体的にイメージできる学習指導要領
- (5) カリキュラム・マネジメントするにあたって活用しやすい学習指導要領

(1) 視覚的にも捉えやすい学習指導要領

- 【知識・技能】と【思考・判断・表現】に関連性や各学年の系統性について一覧することができる



- どの【知識・技能】を活用・発揮させながら【思考・判断・表現】していくかなどの単元構想がしやすい

【例】知識・技能と思考・判断・表現が並列に並んだ表 各学年の系統性について一覧できる表

(2) デジタル化された学習指導要領

- ・デジタル化することで、見たいページや探したい言葉がつけやすいようになる可能性がある

【例】俯瞰できる表など(全体)とより具体的に記載されたページ(部分)をリンク等をつなぎ、行き来がしやすいようなもの
キーワード検索などで知りたい情報が集約されるもの

※紙媒体の場合はインデックスが付いていると負担感がなくなる

(3) より具体的に理解ができる学習指導要領①

現行の学習指導要領(解説)は一文一文が長く文章のつながりが読み取りにくく、難解な印象。

【例】学習指導要領解説外国語編(p29)

音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの個別の知識は、どれだけ身に付いたかに主眼を置くのではなく、生徒の学びの過程全体を通じて、五つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものとして、それらを理解し、「実際に英語を用いた言語活動」において活用し、主体的に運用する技能が習熟・熟達に向かったり、後述の思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて知識が獲得され、学習内容の理解が深まり、学習に対する意欲が高まったりするなど、三つの資質・能力が相互に関係し合いながら育成される必要がある。

一文一文を簡潔かつ明瞭にすれば、

全ての教員が容易に内容を理解することができたり、誤解を防げたりする可能性がある。

(3) より具体的に理解ができる学習指導要領②

若い教員等にとっては、指導事項が達成された姿がイメージしづらく、単元構想する際に、どこまで教えるのかに悩んだり、ゴールの姿を設定したりすることに難しさを感じている傾向がある。

【例】学習指導要領解説国語編(p129) 「人間,社会,自然などについて思いを巡らせ ,自分の考えをもつことである。」

→どの程度の水準の考えをもつことが求められているのか。授業者によっては物足りない印象をうける評価規準を設定していたり、レベルの高いものを求めすぎたりすることもある。しかし、個々で判断ができず、指導主事に指導を仰がなければ判断つかないことも多い。

QRコードで動画解説があったり、文章でより具体的に書かれていたりすると
イメージがしやすく授業構想に役立てることができる。

(4) 見方・考え方がより具体的にイメージできる学習指導要領

現行の学習指導要領(解説)は、見方・考え方の抽象度が高く経験の浅い教員にとっては難解で、イメージしづらい傾向にある。

【例】学習指導要領解説外国語編(p 29)

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、～」

→社会や世界、他者との関わりとは具体的にどのような姿をイメージしているのかが明瞭でない。「ALTに向けて～」と言語活動や目標を設定することが多くなり、それが正しい見方・考え方なのかが判断がつかない。

「こういうことがわかる・できるようになってほしい」
という教科の資質・能力をよりわかりやすく具体的に理解できるようになると、
見方・考え方を発揮した姿がイメージしやすくなり授業構想に取り入れやすい。

(4)カリキュラム・マネジメントするにあたって活用しやすい学習指導要領

- 「何か新しいことをしなければいけない」という負担感
- 実は、今まで取り組んできていることをよりシンプルに、よりねらいを定めたもののはずなのに、それがあまりイメージされていない
- 総則にある手順の言葉が難しく、具体的に何をどのようにしたらよいか分かりづらい部分がある
- 「育成したい生徒の資質・能力に向かって」が分かりにくく、単元配列表の作成に陥ってしまう可能性がある。



- 総則編にある「手順」がもう少し分かりやすく具体的な言葉になってほしい。
- 手順の中に「育成したい生徒の資質・能力を明確にすること」をもう少し具体的に入れた方がいいのではないか
- 育成したい資質・能力について、各教科の指導事項が一覧で見られるようになってほしい(右図参照)

例えば

本校の育成したい生徒の資質・能力のキーワードを入力すると、キーワードが含まれる指導事項が一覧表になって出てくる。

本校の育成したい生徒の資質・能力			
キーワードを入力してください。	論理的	根拠をもとに	まとまりのある文章
資質・能力	思考・判断・表現 ▼		
国語			
社会			
理科			
数学			
外国語	「書くこと」イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や分を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。		
保健体育			
技術・家庭科（技術分野）			
技術・家庭科（家庭分野）	A（2）幼児の生活と家族 幼児との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	A（3）家族・家庭や地域との関わり 家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	

(参考) 授業構想の具体例・中学家庭科

(1) 題材について確認する(準備段階)

- ・題材と学習指導要領解説に書かれている指導事項を照らし合わせる。
- ・本題材における「ねらい」「この題材でつけさせたい資質・能力」を確認する。
- ・ゴールの姿を描く。
- ・生徒の実態を把握する(アンケート、聞き取り、小学校の既習事項)
- ・学習指導要領における、身に付けさせたい力を抜き出す。

「～を理解させる」「～ができるようにする」

「～に気づくようにする」「～を考えることができるようにする」

- ・題材における見方・考え方を確認する。
- ・題材について教材研究する。
- ・他教科とのつながりを見る(単元配列表、他教科の先生に聞く、他教科の解説を読む等)。

学習指導要領解説から、指導事項を抜き出し、付箋に書き出す。

住居の基本的な機能

日本の伝統的な住まいの様式

幼児や高齢者の住まいの事故の防ぎ方

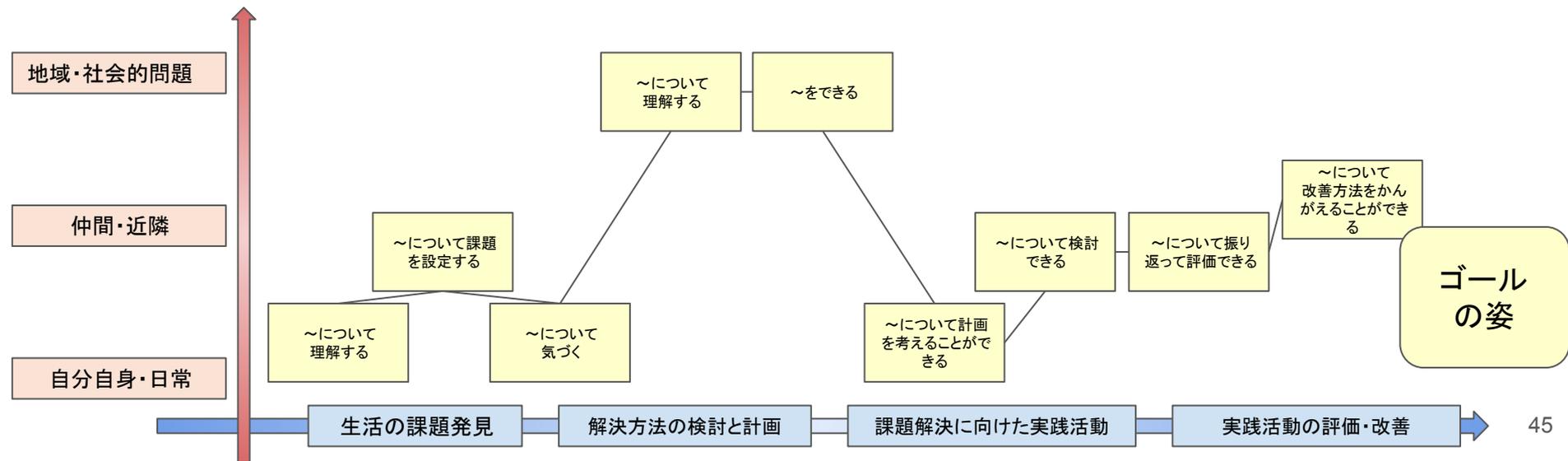
(2) 題材の流れをつくる(学習内容を生徒の思考でつなぐ)

- ・ゴールの姿を設定する。
- ・抜き出した資質・能力をゴール姿につながるように生徒の思考の流れに沿って並び替える。

横軸: 探究的な学習の流れになるようにする。

(生活の課題発見→解決方法の検討と計画→課題解決に向けた実践活動→実践活動の評価・改善...)

縦軸: 自分のことだけで考えがとどまらないように、視野を広げる視点を設定し、学びの深まりが出るようにする。(自分、地域・社会、世界)

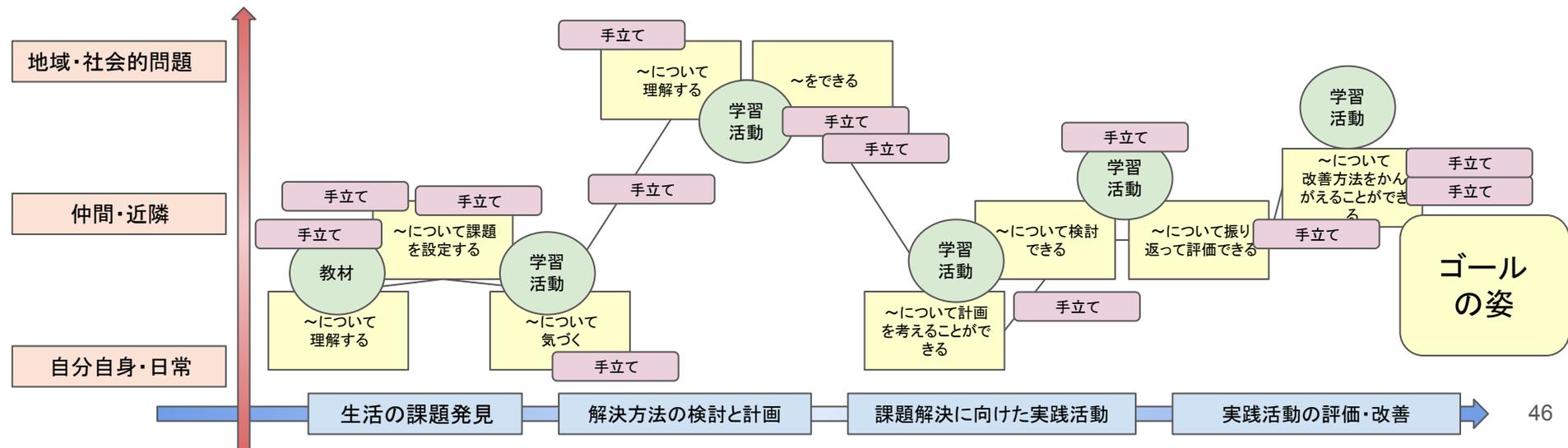


(2) 題材の流れをつくる(手立てを考える)

- ・たくさんの手立てを出し、資質・能力に直結する手立てを精選する。
- ・身に付けてほしい資質・能力の育成につながる学習活動や教材を考える。
(「活動あって学びなし」にならないように注意)
- ・ゴールの姿まで生徒の思考が無理なく流れていくにはどうしたらよいか考える(手立て、環境など)。

「ただの答えになってしまうのではなく、生徒が考えるヒントになる手立て」
 「自分で学んできたことが、次の時間の手立てになる」
 「一人ひとり生徒の姿をイメージし、その子にあった手立て」「より効果的な手立て」

- ・評価基準と照らし合わせる。評価方法を設定する。



(3) 単元マップに整理する

- ・授業を通して身に付けたい力
- ・他教科との学びのつながり
- ・振り返り
- ・キーワード(見方・考え方)
- ・ヒント
- ・評価項目
- ・小学校で学んだこと
- ・学習内容

単元マップ「魚の調理を工夫しよう」

キーワード
(見方・考え方)

授業を通して身に付けたい力		キーワード(見方・考え方)	
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解しているとともに、適切にできる。 ・食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理について理解しているとともに、適切にできる。 ・調理する魚に適した加熱調理の仕方について理解しているとともに、基礎的な日常食の調理が適切にできる。 	<p>健康・安全 生活文化の継承</p> <p>小学校での学習</p>	
思考・判断・表現	魚の調理における食品の選択や調理の仕方、調理計画について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	<p>材料の分量や手順、調理計画 用具や食器の安全で衛生的な取り扱い、加熱用調理器具の安全な取り扱い、野菜やいも類に応じた洗い方、調理に適した切り方、後片付け 野菜やいも類に適したゆで方、いため方 おいしく食べるための調理計画及び調理の工夫</p>	<p>小学校での 既習事項</p>
主体的に学習に取り組む態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善しようとしている。	<p>他教科との学びのつながり</p> <p>国語：根拠を示して説明しよう 保健体育：体の発育・発達 総合的な学習の時間：</p>	<p>他教科との つながり</p>

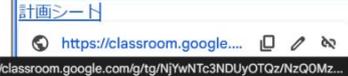
授業を通して
身に付けたい力
(資質・能力)

(3) 単元マップに整理する

学習内容		ヒントになる資料 URL	学習の流れ		評価	
①	1時間	魚料理の課題とは？	主な参考資料 魚に関するアンケート結果	振り返り ①今日の自分はどのように学習を行ったか ②どのようなことが分かったか・できたか できなかったか ③次への課題	振り返り 魚が嫌いな人のアンケートを元にして解決したいことを考えることができました。嫌いなひとの意見を見ることで新しい発見もあったし、鮭について調べていくことで栄養豊富なこと、食べて行くことが出たので、入れて調理したい	思考 判断
魚料理の課題を克服する料理を工夫しよう		チェック	振り返り		振り返り	評価
②	2時間	食品の選択 (用途に応じた食品の選択等)	完了	1回目の振り返り ①今日の自分はどのように学習を行ったか ②どのようなことが分かったか・できたか できなかったか ③次への課題	自分は鮭を調べて栄養や価格を知ることでもいつも食べていることに感謝しようと思いました。友達の子の話も聞いて栄養があることを知って魚は体に良いと分かりました。鮭のことを調べると鮭は焼いたら保存できる時間が長くなると知り、しっかり焼く調理方法にする工夫ができました。調べたことを活かして作るものを決めることが出来たので、次回からも鮭の特徴にあった調理ができるような計画を建てられるように頑張りたいです。	知識 技能
		調理の仕方 (材料に適した調理の仕方等)	完了			
		調理計画 (手順を考えた効率的な調理計画)	できませんでした			
③		食品の選択 (用途に応じた食品の選択等)	完了	2回目の振り返り ①今日の自分はどのように学習を行ったか ②どのようなことが分かったか・できたか できなかったか ③次への課題	自分は鮭のムニエルを選んで教科書では最後バターでからめるだけだったけど、自分はソースを自分で作ろうと挑戦することができました。分量や調理の方法など教科書やネットで調べたことを組み合わせてオリジナルの計画を作ることができたので良かったです。ただ調理方法を書くだけではなく焼く順番や工夫などのポイントを書くことが出来ました。なのでこれからも色々な情報源から情報を手にいれることを意識したいです。	思考 判断 表現
		調理の仕方 (材料に適した調理の仕方等)	完了			
		調理計画 (手順を考えた効率的な調理計画)	完了			

↑ 国語科の学習と

(3) 単元マップに整理する

調理計画 (手順を考えた効率的な調理計画)				
料理実習		振り返り		評価
自分の計画をたてた料理を作ってみての振り返り		調理実習を行って ①今日の自分はどのように学習を行ったか ②どのようなことが分かったか・できたか /できなかったか ③次への課題	前回学んだ最初にまぶす塩の分量を気をつけて調理することが出来ました。そのおかげで増加減がちょうどいい美味しい鮭になったので良かったです。焦げないようにするために水分をしっかり取る工夫が出来ました。ソースを作るときは弱火で1分もかからずに作れたし、鮭を約時間も2分ぐらいでできて簡単に時短で作れました。それは自分の食べる機会を増やすという目標を達成することに繋がりました。魚を食べない人は調理方法が難しく時間がかかるという理由が多かったから簡単にすぐ自分は作れたので目標を達成できたと思います。なのでこれから、調理実習以外でも目標を立てることを頑張りたいと思います。	知識 技能
献立名	鮭のムニエル			
計画シート				
ペアの人の調理を観察して気づいたこと		今までの学習で活用してきたシートにつながるURL (他の人の考えも見るができる)		
調理した人の名前			最初の鮭に塩をまぶすときに塩の量が分からなかったから、ペアと一緒に考えたり、聞いたりしてちゃんとした量を見つけることができました。作っているところをちゃんと動画に撮って観察することができました。料理をつくり終わった後に反省点や美味しい理由と一緒に考えることが出来ました。そうすることで自分がするときのポイントを見つけるという工夫が出来ました。観察して塩の量が多いと気づいたから、量に気をつけるというポイントを見つけられました。焼き時間をちょっと短くすることで外はパリパリになることに気づきました。なので自分の時も学んだことを活かして作って行きたいです。そして自分も食べたあとや動画を見返して悪いところも良いところも振り返られるように頑張りたいです。	知識 技能
調理実習を終えて		振り返り		評価
⑥	1時間 調理実習を終えてお互いの実践を発表し合おう (実習を振り返り、魚料理を主催とする晩御飯を1人で調理するために調理計画を改善し、発表する) ・撮影した動画を確認し合いながらグループで相互評価を行い、アドバイスし合う。 ・1人で調理する場合、調理手順は適切であるか、調理計画を見直し、改善する。	振り返り ①今日の自分はどのように学習を行ったか ②どのようなことが分かったか・できたか /できなかったか ③次への課題	友達と意見交流をしながら学習を進めていく中で同じ鮭のムニエルを作っている自分の知らなかったことに気づくことが出来ました。例えばレモンをかけると臭みがないと自分ができなかったことを知ることが出来ました。知識がふえたので良かったです。意見を交流するときに調理実習を思い出して自分の行動を思い出すことが出来たので、次の調理実習で活かせるように頑張りたいです。	思考 判断 表現
⑦	1時間 これまでの学習を振り返って感想をまとめ、家庭での実践に向けて見通しをもつ。	振り返り ①自分はどのように学習を行ったか ②どのようなことが分かったか・できたか	題材全体の振り返り	思考 判断 表現

習とつながります ↓